

マリレジャー安全レポート

第2号

第七管区海上保安本部
マリレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp

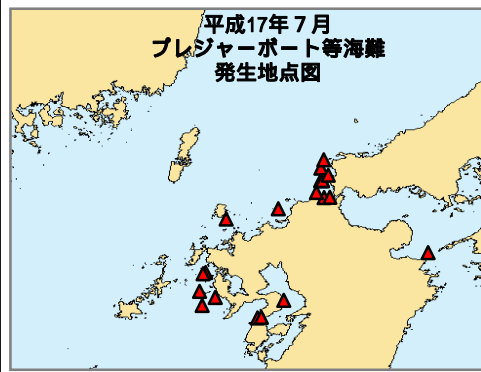
転覆船船内から女性1名救助！

錨泊遊漁中のプレジャーボート（約7m）が貨物船と衝突し、男性1名が船外に投げ出され、キャビンで休息中の女性が船内に閉じ込められましたが、約2時間後、当庁ダイバーにより無事救出されました。

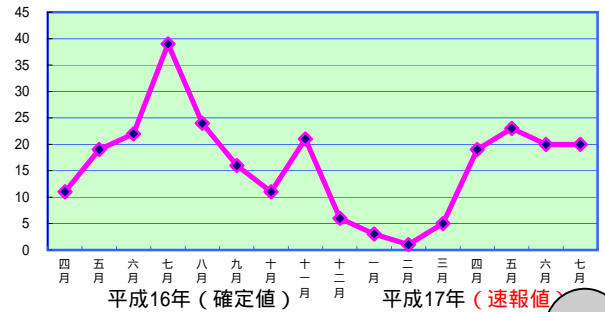
平成17年7月
プレジャーボート等
海難発生隻数

合計	20隻
衝突	6
乗揚	0
転覆	2
浸水	0
推進器障害	2
舵障害	0
機関故障	5
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航障害	3
安全障害	0
その他	2

（下の写真は転覆したプレジャーボート）



プレジャーボート等海難発生隻数の推移



4月～7月の事故は20隻前後で推移

海難船舶20隻のうち、先月同様衝突が6隻と多数を占めています。

機関故障や運航障害の海難も増加傾向にあり、これらの主な原因は、燃料フィルターの目詰り、冷却水循環駆動バルブの切断、バッテリー過放電、燃料欠乏等です。点検や確認等を行っていただければ未然に防げる海難です。機関取扱い習熟や点検整備を怠らないようにしましょう！

運航障害とは、バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失及び無人漂流をいいます。

【事故から学ぶ】

携帯電話を持って出かけること。防水パックが有効！

3人の携帯に繋がらないのはおかしいと感じた家族からの早期通報が得られた。携帯電話が防水型若しくは防水パックに入っていないことから水濡れで使用不可だった。

行き先を必ず家族に告げる！

釣りに出かける前に、妻におおよその行き先を告げていたため、捜索範囲が狭められ早期の発見に繋がった。

帰る時間も家族に告げ、早めの帰宅を設定する！

帰宅時間を早く設定していたため、明るい内に捜索が開始出来た。（捜索が夜になると当然、発見確率が極端に低くなってしまいます。）

ただし、愛のない家庭で、いくら行き先や帰る時間を伝えていても、誰も気にしてくれなければ意味がないですけど・・・（編集者の独り言）

プレジャーボート事故事例とその教訓

「何か事故でも・・・？」と118番

7月初旬の午後4時6分、長崎県の女性から118番通報で「夫が友人2人と一緒に、島付近に船で釣りに出かけ、昼の2時過ぎには帰ると言っていたが未だに帰って来ない。3人全員の携帯電話に電話したが繋がらない。」旨の通報。

海保、消防、自衛隊が出動！早期発見・救助！

遭難の可能性が高いとして、巡視船艇、ヘリコプターが緊急出動、岩場（瀬）で救助を待っていた3人を捜索中の巡視船が発見し、ヘリコプターで無事吊り上げ救助した。3人は乗船していたプレジャーボートが大波を受け転覆し、約3時間余りボートにすぎり漂流、近づいた瀬に泳いで上陸したもの。全員ライフジャケットを着用していた。

夏場の海の事故多発！各地で12人が死亡！

七管管内では、7月～8月6日までの間に、海水浴場などで遊泳中に11人（死亡3人）、貝藻類採捕などの磯遊び中に7人（死亡5人）、海中転落など釣り中に4人（死亡3人）、水上オートバイからの転落や同オートバイに曳航された遊具の転覆などその他で3人（死亡1人）が事故に遭遇しています。

事故の原因は、その殆どが事故者の過失に起因するものです。マリレジャーの際には、ライフジャケットなど安全のための装具等の着用はもとより、無謀な行為は行わない、単独行動は避け同行者の動きにも留意する、地形的な危険性を把握して行動する、自分の知識や技量にあった行動をとる、事前に気象・海象の状況を把握して行動する、自分や同行者の体調にも配慮するなどにより、楽しく遊びましょう。

海の相談室だより (七管本部海洋情報部)

高くなる海面に注意！夏場は潮位が高い！

7月から10月は年間で最も潮位（海面の高さ）が高くなります。

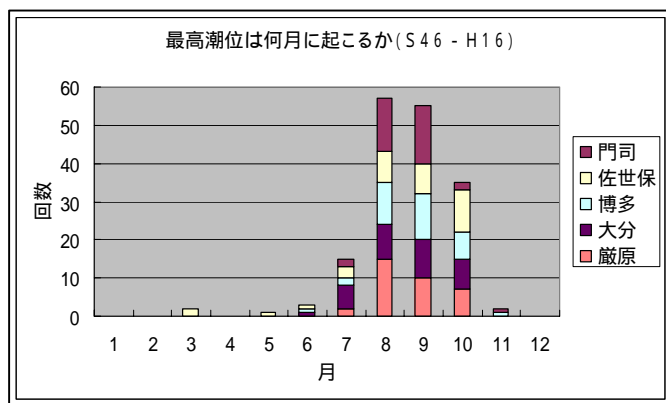
九州北部海域では、夏季には水温が上昇し、さらに冬場に比べて気圧も低くなるため、月別最高潮位は冬季と比べて30～50cm潮位が高くなります。

また、台風や低気圧が接近するとさらに潮位が一時的に上昇しますので、この時期の新月・満月前後の満潮時には高潮（たかしお）にも注意が必要です。

七管管内では、門司、佐世保、厳原、大分、博多の験潮所で常時潮汐観測を実施し、この潮位情報をインターネットで提供しています。下記のアドレスで、全国の潮汐情報をリアルタイムでご覧になれます。

図は、年間の最高潮位がいつ起こったかを、前記験潮所についてまとめたものですが、8月、9月に最高潮位を記録することが多いことが分かります。

http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TIDE/real_time_tide/htm/kck_main.htm



マリンミニ情報

～落雷から身を守るために！～

「8月1日、千葉県の水浴場で落雷により、1人が死亡、8人が重軽傷」など、最近、落雷事故が時折報道されています。福岡県では4月3日に志摩町の海岸でサーファー1人が死亡、4人が負傷する事故が発生しています。事故を防ぐためにも雷が鳴ったら早めの避難を心がけましょう。

雷雲は、早いものは時速60km以上で移動します。雷の予兆があったら、とにかく安全な場所に避難することが大事です。安全な場所とは、鉄筋コンクリート建築物、本格的木造建築物、自動車の中など。簡易な小屋などでは、壁や柱が離れて姿勢を低くした方が安全です。

近くで鳴り始めてからでは遅い。逃げ場がなければ、ひたすら姿勢を低くして、雷雲が去るのを待ちましょう。

海上で雷は、頭ひとつ分や波頭などほんのわずかでも高いところに落ちるとのことで、遊泳者、サーフィン、水上オートバイ、釣り（竿）など海面から突き出しているものは落雷のおそれが高い。危険な場所は、海岸や海上など開けた場所や高さ5m未満の物体（樹木や岩など）の周囲、高い建物や樹木の真下付近、テントの中やパラソルの下等々です。



第七管区海上保安本部からの連絡

～プレジャーボート愛好者に対する集中安全指導・取締り～

昨年、七管管内で、プレジャーボート乗船中に衝突や転覆などの海難や過失による転落等により海に転落した乗船者は53人であり、このうち8人が死亡又は行方不明となりました。おじいちゃんとお孫さんの2人が乗船した船が無人で発見され、その付近で2人の遺体が発見されるという痛ましい事故もありました。死亡を伴うような事故は絶対になくさなくてはなりません。そのためにはプレジャーボート愛好者個々が安全への意識を強くもって行動することが不可欠です。

七管では、下記により集中的な安全指導と取締りを行い、関係者の一層の安全意識の向上と死亡・行方不明者の抑制が図られることを期待しています。

【実施日】

8月20日(土)及び同21日(日)の2日間

【重点指導事項及び取り締り】

自己救命策確保の推進

- ・ライフジャケットの常時着用
- ・携帯電話等連絡手段の確保（防水パック使用）
- ・118番の有効活用

船舶職員及び小型船舶操縦者法に定める遵守事項

- ・酒酔い操縦の禁止
- ・危険操縦禁止（遊泳者等付近での航走等）
- ・ライフジャケット等の着用（水上オートバイ、子供等）
- ・免許者の自己操縦（水上オートバイ、ボートは港内等航行時）

悪質又は重大事故につながりかねない法令違反



ライフジャケットの有効性 (過去5年全国統計)

**プレジャーボート等からの転落事故
着用者生存率74% 非着用者生存率40%**

**釣り愛好者の磯・防波堤等からの転落事故
着用者生存率82% 非着用者生存率51%**

海で安全に楽しく遊ぶために
～大切な命を自分で守る～